クトゥルーⅣ　邪神の復活

C・A・スミス他（大瀧啓裕訳）　青心社（5／1刊・¥1600）

青心社版クトゥルー神話第四弾。ラヴクラフト&ダーレス、ロング、ハワード、ブロック、スミスらを集めたもの。本書のあとがきで、編者は、ラヴクラフトのクトゥルーが、人類を超越したものの記録として書かれてきた、と指摘している。それに対して、人間の視点を導入し、神話大系化したのがダーレスなのだ。青心社版では、ダーレスを主眼に、作品収録がなされている。

九篇収められていて、うち三篇がダーレスである。どれも、人里離れた山中、または田舎にある邸宅で、かつて住んでいた者の呪い（実は、古代の邪神に関係していた）により、また犠牲者が出る、という展開。画一的すぎて、その意味での面白味には欠ける。しかし、クトゥルーはそもそも約束事を楽しむ一面もあるのだから、あまり批判すべきでもないだろう。ただし、その他のハワード、ブロックらの作品で、クトゥルーらしいと感じたものが第一少ない（スミスはちょっと異色だが）。クトゥルーの枠組みがなければ、間違いなく忘れられてしまう小説だ。神話の創始者ラヴクラフトと、大系化の立役者ダーレスを越える作家はいないのだろうか。（俊）